

昭和 56年 (1981年)	弟子屈市街築堤完了
昭和 59年 (1984年)	釧路川工事実施基本計画の改定
釧路遊水地計画の導入	
昭和 60年 (1985年)	岩保木水門の改築に着手
昭和 61年 (1986年)	瀬文平築堤に着手
昭和 62年 (1987年)	オソベツ築堤の浚渫に着手
	釧路湿原が国立公園に指定される

平 成

平成 2年
(1990年)
釧路川水系河川環境管理基本
計画の策定

平成 4年
(1992年)
[台風17号による洪水]
流量:324m³/s(標茶)
浸水面積:58.25ha(釧路市)^{※5}
被害家屋:26棟(釧路市)^{※5}

平成 5年
(1993年)
平成 6年
(1994年)
平成 9年
(1997年)
平成 10年
(1998年)
1月、釧路沖地震
10月、北海道東方沖地震
河川法改正される
[台風5号による洪水]
流量:255m³/s(標茶)
氾濫面積:10.6ha^{※4}
被害家屋:13棟(釧路市、釧路町)^{※4}

平成 11年
(1999年)
「釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会」の設立

平成 12年
(2000年)
釧路湿原のほぼ全域を河川区域に追加
「釧路湿原の河川環境保全に関する提言」が出される
旧釧路川を釧路川に名称変更
自然再生推進法の施行
釧路湿原自然再生協議会が設立される
9月、北海道十勝沖地震

[台風10号による洪水]
流量:337m³/s(標茶)
浸水面積:13.8ha^{※4}
被害家屋:3棟^{※4}

平成 17年
(2005年)
「釧路湿原自然再生全体構想」が策定される
釧路川水系河川整備基本方針の策定
基本高水のピーク流量(標茶):1,200m³/s
芽沼地区旧川復元実施計画の作成
土砂流入対策実施計画(久若呂川)の作成

平成 20年
(2008年)
釧路川水系河川整備計画策定
整備計画対応流量(標茶):780m³/s

平成 23年
(2011年)
3月、東日本大震災
芽沼地区旧川復元工事完了
幌呂地区湿原再生実施計画の作成

地震が発生した場合の対策として関係機関と連携して、光ファイバー等により地震発生時の情報伝達ルートを確保します。また必要に応じて河川管理施設の耐震対策を図るとともに地震により被害が発生した場合、迅速に機能の回復を図ります。

地震とともに津波が発生した場合、津波の遡上による河川利用者の被害や樋門からの逆流による浸水被害の発生が想定されるため、津波の河川遡上時における挙動や影響について検証するとともに、必要に応じて樋門の遠隔操作化・自動化などの被害軽減対策を図ります。また、関係自治体や地域住民及び河川利用者へ速やかな情報の提供を行うため、情報掲示板等の情報提供施設の充実を図ります。

発生年月日	震央名 (地域又は命名地震)	マグニチュード	釧路港 津波記録
明治27年(1894)年3月22日	根室半島南東沖	7.9	100cm
昭和35年(1960)年5月23日	チリ沖(チリ沖)	8.5	267cm
昭和43年(1968)年5月16日	三陸沖(1968年十勝沖)	7.9	138cm
平成6年(1994)年10月4日	北海道東方沖(北海道東方沖)	8.2	103cm
平成15年(2003)年9月26日	釧路沖(2003年十勝沖)	8.0	120cm
平成23年(2011)年3月11日	三陸沖(東日本大震災)	9.0	208cm

※釧路港の津波記録が100cm以上地震

平成5年1月釧路沖地震本復旧工事



基盤補強: サンドコンパクションパイルで基盤処理

平成15年9月十勝沖地震津波遡上状況



久寿里橋上流右岸(16:30頃)

平成23年3月東日本大震災津波遡上状況



錦町岸壁MOO浸水状況



入舟地区的浸水状況

津波対策：昭和樋門（遠隔自動化）



昭和樋門(遠隔自動化)



昭和樋門 閉扉状態

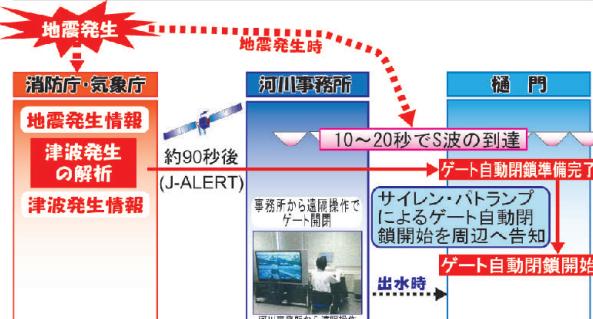


最大波扉体へ衝突



情報掲示板

J-ALERT(全国瞬時警報システム)による水門自動閉鎖の操作フロー



平成23年3月11日23:48
外水位2.18m 内水位0.92m 水位差1.26m